産業廃棄物の鹿原皮を利用した鞣し染色の加工技術の共同開発及び鹿革の特徴を利用した生活用品やアウトドア用品の製品開発事業

食肉加工に伴う産業廃棄物の処理が課題に

株式会社北海道えぞ鹿ファクトリーの前身は日中物産株式会社。主に中国との輸出入業を行なってきた。同社では中国では漢方薬として貴重品扱いされるシカに注目し、道内に生息するエゾシカを活用すべく2011年から食肉化への研究を重ねてきた。北海道立総合研究機構食品加工研究センターの技術指導のもと、2013年4月に商品化の目処がたち、白糠町に工場を建設。道産エゾシカを活用した加工食品製造事業をスタートさせた。

エゾシカの食肉製造の過程で、皮類は廃棄物の約25%を占める。同社ではこの産業廃棄物を減らし、有効活用できないかと模索していた。調査するとエゾシカの皮革製品は市場にはほとんど出回っていないものの、柔らかな質感から「レザー界のカシミア」と言われるほど優位性があることがわかった。道内に生息するエゾシカとの共生や、産廃を減らすリサイクルの観点からも、事業化が急務であった。

大学や学生などとの連携で活路を見出す

プロジェクトでは鞣し革製造の全国シェア70%ほどを誇る姫路市のメーカーを探し出し、製品化に向けた用途別の鞣し加工を試行錯誤した。一番の課題は、飼育ではない野生の皮であることだった。エゾシカは季節や生息地域によって食べているものが異なることから、皮脂の含有量も個体によってさまざまであった。ゆえに一定の品質に仕上げることが難しかった。

一方で、出口となる具体的な製品化に向けては、札幌市立大学のデザイン学部と連携した。近年ブームのアウトドア・キャンプ用品市場に目を向け、アウトドア用品店オーナーやキャンプ場で愛好家にヒアリングを実施。トングやカップの持ち手部分のカバーといった製品のニーズを模索した。連携した大学の学生たちを集めたワークショップも開催し、女子学生からの意見やアイデアも収集してきた。代表取締役の呉さんは「小物やアクセサリーといった思いもよらない生活用品の可能性を見出せた」と喜ぶ。次年度からは具体的な製品化へと夢は広がっている。

企業の声

代表取締役
呉 琦

世界で売れる製品を目指して

これまでのネットショップでの販売経験を生かし、自分で組み立てる楽しみのある商品を目指していきます。動画も使って道外や世界に販路を拡大できればと考えています。

さまざまな質感や色の皮から製品に最適なものを選択する

さまざまな色や
質感の皮から
学生のアイデアを募った

姫路のメーカーに足を運び試行錯誤を繰り返した

「北のジビエ」として全国に
ネット通販を行う

北海道東部にある、エゾシカの故郷・白糠町より全国に鹿肉と鹿の加工品をお届けする。

株式会社北海道えぞ鹿ファクトリー

札幌市中央区南4条西9丁目1006番地8　プラネットビル302号室
TEL 011-211-5737
https://deer-factory.jp/

設　　立　平成6年5月
従業員数　10名（アルバイト含む）
代 表 者　呉 琦